

【はじめに】

Brown University で学部留学をしております辻琴音です。遅くなりましたが今回の報告書では学部2年の秋学期（9月-12月）について報告致します。



図 1 : キャンパスの中心となる広場 Main Green。暖かい時期には学生が本を読んだりスポーツをしたりととても賑やかな空間です。



図 2 : 寮の3人部屋の私の角。15畳の部屋にベッド、机、引き出し、棚それぞれが3つあります。使用前の綺麗な状態を写真に収めておいてよかったです。

【授業】

一学期の受講制限により大学4年間で受けたいと思う授業を全て受けることができないことに気づき、今学期から学期ごとに5コース受講することにしました。

CHEM0360: Organic Chemistry

一年の春に受講した有機化学の続きです。勉強量が非常に多く、途中から成績を保つために勉強を続けていると感じてしまい、学期の最後の週にこのコースをドロップしました。ブラウンはドロップした授業は成績表に反映されないシステムがあり、学問を楽しんで学べる環境が整っていると再度感じました。

CSCI0170: Computer Science: An Integrated Introduction

コンピューターサイエンス (CS) は今後どの分野に進むとしても役立つだろうという少し軽い気持ちで受講することを決めたイントロ CS 二部コースの前半です。関数型プログラミングを使い任意精度演数、自然言語処理、データベース設計、戦略的ゲームの構造などについて学びました。高校以前にコンピューター関連の授業が全くなかったため、初めは CS がどのような学問かあまり認識していませんでしたが、この授業を通して CS で紹介されるアルゴリズム、データ構造、分析方法、論理などが全て非常に美しく感じられました。イントロの授業であるため短時間に要求される勉強量が多く、この授業の宿題を終わらせるためにほぼ毎週水曜日と木曜日は徹夜日となっていました。しかし、辛いどころか時間が経つのを忘れるほど楽しく、他のどの宿題をしている時より熱中していました。

ENGN1490: Biomaterials

学部 3、4 年と修士の学生が主に受ける Biomedical Engineering 必須の生体材料の授業です。専攻を何にするか迷っていた中、Biomedical Engineering が候補の一つであったため受講を決めました。人工骨や人工関節、カテーテル、人工臓器、肌や神経の再生、刺激電極などを材料の視点から学びました。授業最後の個人プロジェクトとして脳深部刺激療法に焦点を当て、使用する機器に最適な材料を色々な論文を元に選ぶことがとても印象的で楽しかったです。初めて論文を深く読んで理解することもこの授業で学びました。

FREN0400: Intermediate French II

文法、読解、スピーキング、リスニングを学ぶフランス語の授業です。学期前にプレイスメント試験を受けて自分のレベルに適した授業を勧められます。言語を学ぶのは大好きなので授業というよりもフランス語を練習できる機会のように感じました。初めて一冊の本をフランス語で読んで理解することができ、とても達成感を感じました。

NEUR0010: The Brain: Introduction to Neuroscience

神経科学のイントロの授業です。全国的に使われている神経科学の教科書の筆者の方々がブラウンの教授であり、とても丁寧な授業を受けることができました。教授の説明が理解しやすかったのと自分にとって完全に新しい分野であったため毎回授業が楽しみでした。



図 3 : 忙しい週のスケジュール。とても充実していてあっという間に時間が過ぎてしまいます。

【Teaching Assistant (TA)】

ブラウンは学部生が7割以上の学生人口を占めているため、授業のTAの多くは学部生が担当する形になっています。一般的に以前その授業を受けた生徒が教授から推薦を受け、TAとして選考されます。その授業の構成や教授の傾向を把握していて、教科の内容や疑問点も学びたての状態での状態でTAになるため、非常に効率が良いシステムだと感じました。学年問わずTAになれるため、私がTAをしている授業の生徒が他の授業で私のTAだったケースもありました。

ENGN0030: Introduction to Engineering

昨年受けた工学の入門授業です。私は週に2時間半の創作講座を二回担当しました。教える前に必ず準備が必要で、それが毎週予想以上に時間がかかりました。

JAPN0100: Basic Japanese

語学のTAは言語を教えるというよりは一時間その言語で会話をして発音を訂正することが仕事です。始める前は私の日本語力で生徒に日本語を教えていいのか疑問を持ちましたが、問題なく続けることができました。

【生活】

スケジュールの関係により食堂のアルバイトと小学校の訪問を続けることはできませんでした。昨年と大きく生活の変化はありませんが、今学期で新しいことを紹介します。

フラタニティに住む

アメリカの大学にはフラタニティとソロリティという学生組織が存在します。フラタニティは男性、ソロリティは女性が共同生活をする社交クラブのことを指します。一般的にパーティーを頻繁に行い、排他的な印象があるため、私はソロリティに入会する意思はありませんでしたが、寮の振り分けの関係でなぜか私は二つのフラタニティが所属する建物に住むことになりました。住んでみてからはフラタニティに住む経験ができることは幸運だと考えるようになりました。一緒に住んでいるフラタニティの一つがLGBTQコミュニティーの方々の集まりであるため、今までには考えたことがない視点からの人権やジェンダーに関する思想を聞けることができました。自分が快適と感じていた環境から少し離れた環境に置かれたことにより、より柔軟で偏見の少ない考え方を学ぶことができました。

Brown Space Engineering (BSE)

小規模の人工衛星を打ち上げるクラブに今学期から加入し、R&D (Research & Development) チームでロボットアームの設計を担当しました。R&D では今後打ち上げる人工衛星に導入できる技術を事前にガス気球で試す作業を行います。様々な学問から宇宙好きな生徒が集まっているため、非常に面白い知識の交換の場となっています。

Japanese Cultural Association (JCA)

昨年から部員であった JCA では今年から会計になることになりました。係の役割としての会計や予算を管理するのに加えて、JCA のマネジメントやイベントの主催に大きく幹部として関わることができて組織の構造の勉強になりました。また、今学期の JCA の大イベントとして、松井秀喜選手をブラウンにお招きして、楽しいトークをしていただくことができました。松井選手のとてつもなくスケールの大きなお話を伺って、大変刺激になりました。

Kaiwa Table

日本語を練習したいという外国人学生が毎週一時間集まって会話をする場です。今年から友人とコーディネーターになり、ここで行う会話やゲームの進行と来てくださる生徒に調理した日本食を出す役をしています。日本に興味を持ってきている学生がもっと日本のことを知って好きになってもらえるのを見るのは幸せです。

Salon Français

Kaiwa Table のフランス語に相当するものです。言語は使うことにより成長すると考え、毎週参加するようにしています。今後スケジュールにフランス語の授業を入れることができなくてもここでフランス語を使い続けたいです。



図 4 : BSE の R&D チームで打ち上げた気球から撮った映像のお気に入りスクリーンショット。



図 5 : 松井秀喜選手と JCA の幹部でのお食事。貴重な時間を過ごしました。

【最後に】

最後になりましたが船井情報科学振興財団の支援にはとても感謝しております。今後も勉強や生活など頑張り続けますのでどうぞよろしくお願ひします。